

平成29年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

1 日 時 平成30年3月14日（水）

2 場 所 徳島県庁10階 大会議室（徳島市万代町1丁目）

3 出席者

- (1) 委 員 21名中17名出席（別添「名簿」参照）
- (2) 大学校幹部 飯泉大学校長（知事）、美馬副校長（県教育長）
川村県立総合大学校本部長、各学部長ほか
- (3) 事 務 局 阿部事務局長、山村副事務局長ほか

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 大学校長挨拶
- (3) 議 事
 - ① 県立総合大学校の概要及び取組状況について
 - ② 県立総合大学校の今後10年の新たな展開について
- (5) 閉 会

5 配付資料

- (1) 資料1 徳島県立総合大学校設置要綱
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程
徳島県立総合大学校運営協議会公開要領
- (2) 資料2 県立総合大学校の概要及び取組状況
- (3) 資料3 徳島県立総合大学校の今後10年の新たな展開に向けて（概要）
- (4) 資料4 徳島県立総合大学校の今後10年の新たな展開に向けて（提言）
ほか

6 議事概要

- (1) 開会
- (2) 徳島県立総合大学校長（飯泉知事）から挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 議 事

○ 会 長（佐野委員）

この運営協議会は、設置規程第2条にありますように、大学校の運営に関しまして、委員の皆さまにご助言、ご提言をいただく機会でございます。

本日の会議は午後4時30分を終了予定としておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、すべての方に発言をしていただきたいと思います。事務局からの回答については、皆様のご提言をいただいて、その後処理していただく場合もありますので、すべてについては回答を差し上げられない場合もありますけれども、どうぞご容赦ください。

それではスムーズな進行にご協力のほどよろしくお願いいたします。

まず、議事（1）「総合大学校の概要及び取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

議事（1） 県立総合大学校の概要及び取組状況について説明

○ 会 長

皆さまからのご意見につきましては、最後一括してお受けしたいと思います。

引き続き、議事（2）「県立総合大学校の今後10年の新たな展開について」に進めさせていただきます。

まずは、昨年の運営協議会でもご案内いたしました、「まなびーあ徳島」の今後10年の新たな展開について、この運営協議会に検討部会を設置して検討して参りました。この検討部会長でもあります、馬場委員から説明をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○ A委員

それでは、私の方から概要を説明させていただきたいと思います。この検討部会は、県立総合大学校「まなびーあ徳島」の今後10年をどういう方向性に持っていったらいいかということ話し合うものでございます。この運営協議会から、会長を含め4人の委員と、外部の委員が3人入りまして、7名の委員で構成されています。また、これからの徳島を背負っていく、県庁内の若手の職員の方々に新しいアイデアを出していただくという形で話を進めてきたところでありまして、その結果ですが、大きく分けまして3つの方向性を検討させていただいております。

一つ目は、「学びの対象」でございます。これまで、どちらからいうと年齢層が高い人に偏りがちだったのが、もう少し幅広い世代に広げていくにはどうしたらいいかということでございます。

二つ目に、「学びの内容」でございます。何を学ぶかというのは、本来、生涯学習は本人が主体的に行うものでありますから、本人が決めるべき話であります。しかしながら、やはり先ほど知事がおっしゃいましたように、今後の人生100年時代ということを見据えると、社会の課題、地域の課題に関する学びにもっと力を入れることで、課題解決を主体的に行う人材が育成され、徳島がより良い方向に向かうのではな

いかという方向性で話し合いました。

最後に「学びの手法」であります。学ぶ方法としまして、徳島県は素晴らしいことにICTの基盤がかなり充実しております。それを活性化しながら若い人にも積極的に参加していただけるにはどうしたらいいかということでございます。

以上、この大きく3点の柱に分けて話し合いをさせていただいたところでございます。詳しくは事務局の方から説明をさせていただきますけれども、ぜひ皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○ 事務局

議事（2）県立総合大学校の今後10年の新たな展開に向けてについて説明

○ 会長

ここからは委員に対してご意見、ご提言、ご感想などを伺っていければと思います。

○ B委員

私はICT関連の仕事をしておりますが、併せて、徳島の糖尿病の関係もさせていただいております。徳島の糖尿病の死亡率は非常に高く、文部科学省の「健幸」イノベーション指定地域になっており、徳島大学、文理大学、徳島県にご協力いただき、その死亡率を下げていこうという取り組みをさせていただいております。その取り組みの一つとしまして、今回、「阿波あいネット」と言いまして、通っている病院の電子カルテ情報などを見ることができるというシステムなのですが、この4月から、徳島大学が核となり、運用を開始します。しかしながら、参加協力いただいている方は約9000人。目標を県民の2.5%としていますので、まだまだ先は長いというのが現状です。このシステムのメリットとしましては、例えば、今後いろいろな災害が起こったときに、大きな避難所に避難すると、医療関係の方々も地方から助けに来てくれるのでしょけれども、長くはいてくれないと思うんですね。そういったときに、タブレットなどで、その方にどういう持病があるか、どういう薬が必要なのか、どういう処置がされているのか、ということがすぐに見られる状態になったということなんです。また、例えば、救急車を呼んだときに、その方がどういう持病を持っているかということも、そのシステムを見れば分かりますし、また、給食でアレルギーを発症し、救急車を呼んだときにも、その子にどういうアレルギーがあるのかということもすぐ分かるようになります。そういう時代が来ているんですね。ただ、徳島大学等が中心となっているのですが、やはり救急体制ということであれば市町村がメインになってくるので、市町村の方々の協力は不可欠になりますし、啓発活動も進めていく必要があります。また、最近はスマホに血圧計とか体重計とか活動量計とかそういったものを日頃から蓄えられるというシステムもあるところなので、例えば健康診断のときの値を入れておいたりするなど、年配の方が自分の健康を維持するためにICTを有効利用していただくことで、高齢者の活躍の場も広がっていくのではないかと思います。残念ながら、徳島県は健康寿命が全国四十何位とあまり高くありませんけれども、今お話ししましたようなことが健康寿命の延伸などにも寄与することができるの

でないかと思えますし、また、「まなびーあ徳島」の講座にもご利用いただけるとありがたいなと思っています。

○ C委員

普段若い世代と接する機会が多く、たまに、『まなびーあ徳島』を知っているかという話をするんです。そうすると、やはり若い世代は、そこまで「まなびーあ徳島」について知っている子はいないんですね。たまたま参加した防災教育のところでそういうパンフレットをもらったというような話は一度聞いたことがあるんですけども、やはり若い世代では、「まなびーあ徳島」の存在を知るという機会が少ないんです。以前、講座数がたくさんあるのは大変ではないかというお話を、会議の中で言わせていただきました。でも、最近ちょっと気持ちが変わってきてまして、今後の10年を考えたときに、「まなびーあ徳島」に若い世代がどんどん入ってくるためには、いろんなところで「まなびーあ徳島」を見る機会を増やして、「これも『まなびーあ徳島』だったんだ」というかたちで知っていくというのは、おそらく「まなびーあ徳島」で学んだことはすごく身になることだと思いますし、若い世代からすれば、学ぶきっかけにもなると思いますので、是非どんどん増やしていただきたいと思います。もちろん冊子にするのは大変だと思いますし、何から何まで「まなびーあ徳島」というのは難しいかもしれませんが、「まなびーあ徳島」を知っていただくための第一歩として、各小中高校でやっているものに対しても、これは「まなびーあ徳島」でしているものなんだよということを知ってもらっておくと、その子が成人したときに「まなびーあ徳島」を知っているというのはいいことだと思います。若い世代に行う、例えば各学校で行う教育を「まなびーあ徳島」認証事業みたいなかたちにして、本当に小さなものでもいいと思うんですけど、きっかけ作りにできればいいのではないかと思います。たしか、すだちくんができたのが92年ぐらいですかね。東四国国体でできたと思うんですけど、初めはそこまですだちくんを知らなかったんですけど、今は県民皆さんすだちくんを知っています。かなり時間はかかると思うんですけど、小さな世代に「まなびーあ徳島」の存在をアピールしていけばいいと思いますので、市町村で行われている小さなイベント等であっても、「まなびーあ徳島」ですよって、冊子なりを配布すれば、この「まなびーあすだちくん」のマークを見て、「なるほど、これが『まなびーあ徳島』か」というふうにして、下から育てていくという方がいいんじゃないのかなというふうに個人的には思っています。

○ D委員

先ほどの村崎委員に関連してなんですけども、「学びの方法」として、このICTやIoTを取り入れたかたちにしたうえで、やはり狙う存在というのはSNSであったり、ユーチューブであったりかと思えます。ユーチューブというと、ユーチューバーさんでよく分からないことをして目立っているという印象を、僕も最近まで持っていたんですけども、周りの人の話を聞いていると、農作業に関すること、例えば栽培方法とかでも、結構ユーチューブに上がっていて、それを見て勉強しているという方が結構います。総合大学の授業も、いつでもどこでも学べるというふうにしてい

ったときに、ユーチューブだったら気軽に見ることができるから、わざわざ県立総合大学校で学ばなくてもいいやという人も出てくるのではないかなと思います。そのときにカギになるのが地域性といいますか、地域の課題解決の話になるんですけど、ユーチューブとかそういう大きな媒体で検索したときに、徳島県内の農業分野で言えば、徳島県の春エンジンの栽培に関する情報とかはなかなか出てこないんですね。そういう地元の課題の解決に関係することは「まなびーあ徳島」で検索した方が絶対に早いよという立ち位置になることができれば、若い人も、大きなSNSなりユーチューブなりの媒体と使い分けをしてくれると思うんです。いつでもどこでも配信できるというコンテンツをもっとローカルなもので押さえていくと言いますか、地域の課題に密着したもので押さえていけば、そういう使い分けをしてくれる人は必ず出てくると思います。僕自身のことなんですけれど、前々から農作業について自分で学びたいこともありまして。というのが、農作業をするときにどうしても腰やら肩やら痛くなってくるんです。そういう体の使い方を教えてくれるところが、スポーツだったらコーチがいたり、トレーナーさんがいたりとかがあるんですけども、農業に絞った、いわゆる作業安全の分野はすごく遅れていますし、そういう内容の授業は農業大学校とかで座学のカリキュラムを探してもたぶん見つからないと思うんですね。もし、全国に先駆けて、徳島県で農作業の正しいフォームを教えるといった感じの授業ができたらすごく面白いんじゃないかなと思います。「学びの方法」として、ICTを使うにあたって、そういう地域の課題に密着した授業をどんどん実施して、大きなSNSなりユーチューブなりのものとの使い分けをしてもらうことを狙っていくといいのかなと思いました。

○ E委員

「徳島県立総合大学校の今後10年の新たな展開に向けて（提言）」の中に、移住者という言葉が何個も出てくるので、ちょっとお話をさせていただきたいなと思います。私は、美波町で移住コーディネーターをやっているんですが、都会から来られた方って、温水プールとか、スポーツジムとかないんですかとか、言ってこられるんですね。そんな要望をいただいたときには、山登りに行ってくださいとか、草刈りでスポーツジム代わりにしてくださいとかお返事をさせていただいているんですけど、そういうのが今まで身近に贅沢にあったものですから、結構セレブな要求を出されるんです。こういったものが無いって分かって来ているはずなのに、そういうことをおっしゃって。退屈してきたっていうんですね。特に、④にも記載されている「移住アクティブシニア」ですけど、本当に高齢者の方ってお元気ですから、何かやりたい、何かやりたいって思っちゃるので、⑤の「移住者と地域住民が、相互に教え、学び合う」というのにつながってくると思うんですが、徳島県出身でない方はほぼ1年間は方言が分からないんですよ。⑦の「防災」にも関連してくるんですが、先日、移住者に対して方言についての調査をしたんですけども、災害が発生したときに、地元の人が突然方言で叫び出して、地元の人しか知らない地名とかを言い出すので逃げ場が分からない、それがものすごく危険ということが分かってきたんですね。それと、地域で今まで頑張ってきている方がいるのに、移住者がそれを知らずにやってしまう

という少し困ったことが起こってしまうので、これは移住だけではなく定住にもつながるのですが、とにかく、「1年は静かに暮らしてください。3年たてば『地元の人』になるので、3年たってからが勝負ですよ」というようなことを一生懸命お話ししながら、移住者の方の要求を満たすように頑張っているところです。「まなびーあ徳島」の講座を公民館活動と提携してやってみてはどうかと思っています。南部でしたら南部総合県民局がやるのではなくて、公民館で出張講座として講座をすると集客もすごく楽ですし、町としても広報の面でありがたいんじゃないでしょうか。そういうことをちょっとおすすめたらどうかと思っていますので、またよろしく願いいたします。

○ F委員

県立総合大学の今後10年の方針、本当にこのとおりだなと思われました。幅広い年齢の層に広げていく、社会的課題への対応というところですね。まさにそれが必要なかなと感じます。私自身、鳴門教育大学で消費者教育を担当していて、こちらの「まなびーあ徳島」の方でも消費者教育を充実していくということで大変心強く思っているところなんですけれども、例えば家庭生活、消費生活、子育てについて学べるような講座がもっと増えるといいんじゃないかなというふうに感じてます。私としましても、消費生活について学べる場をどんどん増やしていこうと考えているんですけれども、なかなか人材も限られているというところもあります。教育委員会で「とくしま親なびげーたー」というファシリテータを育成していらっしゃるんですが、ワークショップ型のプログラム集を出されているので、是非それに消費者教育のプログラムも入れていただくとありがたいと思います。ファシリテータの方をたくさん養成されていて、ワークショップ型のいろんなプログラム、特に子育て世代に向けたプログラムを実施していく体制ができてきているようですので、連携していけるといいのではないかと感じているところです。よろしく願いします。

○ G委員

建築の設計の仕事をしておりまして、少し専門的なことで提案をしたいと思います。省エネ法ができて、2020年には小さな300平米以下の住宅も断熱をしないと新築住宅を建てられないことになりました。CO2削減とも叫ばれてますので、どのお家も断熱材をたくさん入れているような住宅になっていくんですけれども、やはり住まい手がその住宅になかなか対応できていないんですね。例えば、断熱をたくさんしてるので熱が逃げないので、夏に太陽の日差しをさんさんと入れて、それですごく暑いのでエアコンをかけることになり、省エネになっていなかったり、そういうことがあまり知られていないんです。冬も、断熱しているから暖かいだろうといって暖房しなかったりするんですけれども、窓を開けて太陽の光を入れると、昔の家よりも少しの暖房で暖かくなるんですね。そういう今の新しい住宅の暮らし方と言いますか、機械だけに頼らないで、昔の住宅の暮らし方の知恵も入れながら暮らしていく方法などを伝える場所がないのかなって思いまして。特に、「まなびーあ徳島」では、ご年配の方もたくさんいらっしゃるの、若い世代にそういうことを伝えていくような講

座もできればいいのになとか、そういう知恵だけに限らず、世代間で伝えていきたいことを伝えることができる場所があるといいなと思いました。それと、ICTの活用とかも言われているんですが、今後10年に向けての改善ということで、この講座一覧表についてなんですけど、内容がすごく充実していて、じっくり見ると受けてみたいような講座がいっぱいあるんですけど、こういう冊子だとしょうがないと思うんですけど、字が小さくてなかなか頭に入ってこないんですね。例えば、講座の魅力的な発信方法として、ホームページに写真を入れたりだとか、講座の一つとして、実際にホームページやSNSを作りながら学べるような講座があってもいいのかなと思いました。また、ちょっと空いた日に、「この講座に行きたい」と思ったときに行けるようなシステムになっていたり、eラーニングができたりすると時間に制限なく学べますし、学校で活用していただくことで「まなびーあ徳島」の宣伝にもなるかと思えます。とは言っても、講座には、人と人との交流の場としての機能も期待される場所でもあります。例えば、去年の講座の様子をブログなどのSNSで見られるようにするなど、皆さんが実際に活動されている様子が分かるようなものも見せていただきたいなと思いました。

○ H委員

新しい講座として、「地域を学ぶ講座」を創設していただき、ただ学ぶだけではなく観光につながるような内容にまで持っていけないものだろうかと思います。例えば、天皇の「鹿服（あらたえ）」を作っている三木家の話であったり、法谷寺というお寺ですが、聖徳太子が建てたというお寺で、法隆寺より古いんです。ある説によると、法谷寺にあった仏像が法隆寺へ持っていかれたという説もあると言われていたのですが、法隆寺はものすごく有名なのに、法谷寺は全然知られていないんですね。そういうものが徳島にはたくさんありますので、そのあたりを「地域を学ぶ講座」の構想の中に入れていただけたらと思っています。観光につながるようにしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○ I委員

観光でつながると思うんですけど、私は「おもてなし英語講座」をさせてもらっており、今年で5年が経ちます。「おもてなし英語講座」を始めて、自分自身も徳島の歴史や観光地のことを知っておいた方がいいかなと思ひ勉強しました。今年、やっと通訳案内士の試験にも合格したところです。2018年に訪れるべき場所として、徳島の大歩危が日本で唯一選ばれました。私は出身は鳴門でございますが、鳴門は今、渦潮と、四国八十八カ所の一つとして霊山寺が世界遺産を目指そうということで、たくさん活動をしています。また、私は、西部校でも「おもてなし英語講座」をしておりまして、大歩危でこの春から観光の事業を始める若い人たちとお話をしたのですが、すでにフランスから40組の方が観光でいらっしゃるということなんです。ただ、その案内を徳島の方がしているのかということではなく、県外から来た通訳ガイドの方がされているそうなんです。海外からのお客様をもてなすには、やっぱり英語をしゃべれるようになってほしいというのをひしひしと感じているところです。「おも

てなし英語講座」にはたくさんの方にご参加いただいておりますが、なんせ3回とか5回とかで終わってしまいます。皆さん、「すごく楽しい。これからも続けたい」とおっしゃってくださるんですけど、終わった瞬間に熱が冷めるみたいなのところがありますので、少しでもたくさんの民間の方がしゃべれるように、もう少し講座の回数が増えたらいいなと思っております。また、南部でも「おもてなし英語講座」をされているということなんですけれど、今、南部の講座とは連携が取れていません。せっかくなので、西部や本部、できれば鳴門も含めて、いろいろな地域の人が集まって、「自分の住んでいる地域のこういうことを観光客に案内したい」というのを取りまとめていけるようになったらもっといいのではないかなと思っております。外国人の方は、日本のいろいろなことに興味があると思うんですね。私は大塚国際美術館でも英語案内をしておりますが、例えば、葛飾北斎なんかは外国人の方にすごく人気があります。徳島と言えばやはり浮世絵は外せませんので、そういったものも南部委員に教えていただいて、それを英語でまた外国人の方に教えていくみたいな、皆さんが協力できていったらいろいろもっと良くなるんじゃないかなと思っております。

○ J委員

小松島市で消費生活センターの相談員をさせていただいております。相談員をしていて感じるんですが、啓発グッズというのがすごく大事になってきているんですね。私一人が街頭に立って「消費者問題に関して何かお困りなことがございませんか」と言うよりも、何かお渡しすることによってその人の印象に残るところがあります。その啓発グッズなんですけれども、県外の業者から送られてくる冊子の中から、一番地元に必要なものを選んで購入しております。それがちょっともったいないなと思うんですね。講座一覧表を見て思ったんですけども、絵を描かれている方や、プレゼントとしてお渡しできるような小物を作られている方がいますので、そういう心のこもったものを添えてお渡しできれば、もらった方もすぐに捨ててしまわずに持っておいていただけるんじゃないかなと感じました。また、私はずっと県内で住んでいるのですが、「徳島の良いところはどこですか」ということを聞かれたときに、あまり答えられなかったりするんですね。先ほど南部委員がお話しになっていた法隆寺の仏像のことも全然知らなかったですし、もっと学びたいと思いました。ただ、先日も「まなびーあ徳島」のホームページを拝見したのですが、私が住んでいる南部地域ではフォーラム1件しか掲載されていなくて、ちょっと切なく感じました。タブレットやケーブルテレビで「まなびーあ徳島」の講座を見ることができるようになっていますので、家から出ることができないというような方にも学んでいただけるとも思うのですが、一方で、どこかに出かけて楽しい気持ちになるというのもとても大事だと思いますので、やはり南部の方ももっと講座を増やしていただけるとありがたいなと思います。91歳になる私の祖母も「楽しそうな講座あるな」と言うんですけども、車いすの生活なので、なかなか家から出ることが難しいんですね。「大学生」ということで、講座会場までの定期券を発行していただけたりとすると、車に乗るのが億劫という方でも、バスや汽車に乗って、道中の景色も楽しみながら、学びの場所に向かうことができるのかなと思いました。

○ K委員

私は子どもたちに絵本を読んだり昔ばなしを語る活動をしてますが、つくづく感じるのは、ふれあいやコミュニケーションの大切さです。去年、四国大学で行われた「赤ちゃん授業」にボランティアとして参加したことがありました。これは、1歳までの赤ちゃんとそのお母さんと、小学校から大学までの生徒さんが参加して、赤ちゃんとおふれ合うという授業なのですが、今、核家族化により、身近に赤ちゃんがいなくて抱っこしたこともないし、「いないいないばあ」をしたこともないような学生さんが増えているんですね。授業の中で、どうやったら赤ちゃんとお仲良くなれるかというのをお母さんに一生懸命聞いている学生さんがいて、3か月後に同じ子に会ったとき、「すごく大きくなった。こんなこともできるようになった」という、成長を生で感じていらっしやっています。お母さん方が自分の子供について、育てる苦労とか、いろいろな体験を学生さんにお話しして、学生さんも一人ずつ発言したんですが、「親に今まで育ててもらったことの感謝の気持ちでいっぱいです」とか、「命の大切さを感じました」とかおっしやっています、本当にこういう関わりっていいなと思いました。ですので、若い人たちに参加してもらって育児講座みたいな、そういうのが一つできたらいいかなって思いました。お話しさせていただきました。

○ L委員

邦楽をしております。資料の中で気になったのが、「障がい者の学びコース」の創設というところです。先日、県立の支援学校へ行かせていただいたんですけども、実は、私にできるんだろうかとちょっと心配しながら伺ったんです。だけれど、伺って見たら本当に感動して。すばらしい感性で、すばらしい演奏を子供たちがしてくれて、「続けて演奏していきたい」と言ってくれる子もいました。ただ、こういうのも必要だなと思いつつも、なかなか実演家だけでは踏み出せないところでもありますので、県だったり教育機関だったりというところから後押ししていただく、ご指導いただくことによって何かできないかなと考えました。

○ M委員

都道府県の魅力度ランキングで徳島県は46位、知事もいろいろされているんですが、ランキングが上がってこない。どこに他の県との差があるのかなと考えますと、発信力だと思うんですね。自分の町はこんなにいいんだよ、こんなものがあるんだよと、そういうことを県民一人一人が発信する力が弱いんじゃないかなというふうに思います。徳島県民は奥ゆかしいと言いますか、たくさん魅力はあるんだけど、それをあえて発信しない、そういう県民性なのかなと思うんですね。そのような中で、「まなびーあ徳島」に求められている役目というのは、やはり「徳島らしさ」なんですよ。「まなびーあ徳島」の講座は充実していますが、民間と重なっているところがあったりしますし、また、先ほど、観光につながるような講座を、というご意見もありましたが、観光産業だけでなく、産業育成につながるような、例えば藍ですね、そのような新しい講座をぜひ作っていただきたいと思います。徳島に生まれ育った人た

ちが、徳島に生まれてよかったなという思いを抱いてもらえるような、学びの体験みたいなものを作ることができれば、徳島ってこんなにいいところなんだよという発信力も付いてくるんじゃないかなというふうに思います。例えば、学んでよかったなと思うようなことをSNSに出してもらい、そして「まなびーあ徳島」のPRをしてもらい、さらに徳島のPRをしてもらい、そのようなかたちで、良い循環ができてきたら、徳島県の魅力度ランキングも上がってくるんじゃないかというふうに思います。ぜひ、この県立総合高等学校の今後10年の新たな展開を具体化するときに、こういった視点も入れていただきたいというのが私の意見です。

○ N委員

先ほど遠藤委員がおっしゃっていたんですが、障がい者の方の学びということで、私も常々感じているところがあります。私どもの法人では、障がい者施設、高齢者施設を運営しているのですが、障がい者が学ぶ場が少ないので、教育や福祉とコラボして一つのことができたらいんじゃないかなと感じております。また、日本版CCR Cの生涯活躍のまちづくりにも取り組んでいるところでございます。外から呼び込んだ方に、徳島の良いところ、地元の良いところをお伝えできるようにしたいと思っています。移住、定着というのがやっぱり大切になってくると思いますので、そちらにも取り組んでいきたいと考えています。

○ O委員

私はとくしま学博士として、パソコンの講座を開催しております。この度、総合高等学校で、とくしま学博士同士が交流し合える「とくしま学博士の交流ひろば」を創設していただきました。私の講座は、講座形式で実施しております。常々、双方向の学習というものをやりたいなと思っていますところなのですが、なかなか実現できていません。このような講座の運営方法や、日頃悩んでいるようなことなどを皆で相談し合えたらいいなと期待しているところです。

○ P委員

私はとくしま学博士に平成22年に認定されました。現在はシルバー高等学校とシルバー高等学校大学院で防災学の講師を務めさせていただいております。講師となった経緯ですが、徳島大学の大学開放実践センターで、2年間、孫と同じ年代の方たちと机を並べて勉強させていただきまして、市民活動支援士という称号いただいたこと、これが契機でした。ですので、今後、「まなびーあ徳島」と徳島大学、そしてシルバー高等学校、シルバー高等学校大学院の間で、連携強化を進めていってほしいなと思います。実は私は、シルバー高等学校、シルバー高等学校大学院の講師のほかに、平成23年から7年間、総合高等学校の県民企画講座としてウォーキング講座の指導員をしています。延べ生徒さんは70人を越えると思うんですけども、多い時には14～15人、少ないときでも2人ぐらいは受講の申込みがあります。ウォーキング講座をしている中で、生徒さんに、「シルバー高等学校で勉強されたらどうですか」というようなお話をすると、明るくなる年には「入学しました」と聞くことがあったり、また、反対に、シル

バー大学校で講師をしているときに、「ウォーキング講座をやっているので参加されませんか」と声をかけたら、さっそくウォーキング講座に申し込んでくれるというようなこともあったりしまして、両方を掛け持ちで参加されて、「良かった」と言ってくれます。ぜひ、大学開放実践センターと、この「まなびーあ徳島」とシルバー大学校あるいは大学院の三者が、これからも連携強化して行ってほしいなと思っております。

○ 会 長

予定の時間が参りましたので、このあたりで意見交換を終了させていただきたいと思えます。県立総合大学校本部事務局におかれましては、委員の皆さまから出されましたご意見やご提言を十分に踏まえていただき、今後の総合大学校の運営に取り組んでいただけますようお願いをいたします。